

コロナ禍による米の需給バランスの不均衡と米価下落 の改善を求める意見書

コロナ禍における米の需要減少は2019年産米の過剰な在庫を生み、2020年産米の市場価格は6年ぶりに下落し、年末年始における感染者拡大と自粛要請、さらに緊急事態宣言の再発令により、需要減少に歯止めがかからず、2020年産米の販売不振と米価下落は深刻な状態になっている。

今年の10月末には、古米在庫が約60万トンにも及ぶと試算され、36万トンの減産が実行されたとしても、効果自体が消散しかねない水準である。このままでは、来年の6月末在庫が250万トン規模となり、2年連続の米価下落にとどまらず、3年連続の米価下落となれば、大規模経営でも米作りから撤退することにつながりかねない。

コロナ禍により需要が減少したことで発生した「過剰在庫」については、政府による特別な隔離対策が必要であり、さらには、かつてない危機的事態の中で苦しむ国民と農家の支援のために、備蓄米のフードバンク等への供給の拡充など、従来の政策的枠組みにとらわれない対策が緊急に求められている。

よって、当市議会は、国に対し、下記事項について強く要望する。

記

- 1 コロナ禍によって発生した市場に滞留する在庫を政府が買い取るなどして市場から隔離し、需給環境を改善すると共に、米価下落に歯止めをかけること。
- 2 コロナ禍などによる生活困難者・学生などを支援するため、欧米並みの食料支援制度を創設すること。
- 3 国内消費に必要な外国産米（ミニマムアクセス米）について、国産米の需給に応じた輸入数量抑制を検討すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和 3 年 6 月 17 日

喜多方市議会議長 坂内 鉄次

【意見書提出】

衆議院議長	大島	理森	殿
参議院議長	山東	昭子	殿
内閣総理大臣	菅	義偉	殿
内閣官房長官	加藤	勝信	殿
財務大臣	麻生	太郎	殿
外務大臣	茂木	敏充	殿
文部科学大臣	萩生田	光一	殿
厚生労働大臣	田村	憲久	殿
農林水産大臣	野上	浩太郎	殿
内閣府特命担当大臣（経済財政政策）	西村	康稔	殿